

わじゃぶくろ
wajyabukuro

ワンダーミュージアム（沖縄こどもの国）
wonder museum(okinawa zoo&museum)

[実施日]

2006年4月1日～現在まで

[実施場所]

沖縄県沖縄市

[関連の深い Goal]

Goal 4 質の高い教育をみんなに

Goal 1 2 つくる責任 つかう責任

Goal 1 7 パートナーシップで目標を達成しよう

[実施報告]

ワンダーミュージアム（沖縄こどもの国）では、廃材とリユースをキーワードに工作体験プログラム「わじゃぶくろ」を常設で毎日開催しています。「わじゃぶくろ」の“わじゃ”は“技”を意味する沖縄の方言。“ぶくろ”には、ぶくぶくと技やアイデアが生まれてくるように、という思いが込められています。地域などから集めた廃材が、まるで駄菓子屋さんのような空間の中に陳列され、商品名や値段が付けられ、工作の材料として新たな価値が与えられています。

このプログラムの目的は、リユースの体験値を高め、その精神をこどもたちに根付かせることにあります。さらに廃材であり材料である「もの」の可能性を見出す力を養い、活かすアイデアと技を高め、創造する楽しさにつなげることを目指しています。

今や物が豊富でなんでも簡単に手に入る時代となりました。しかしながら沖縄は島嶼地域。陸路でつながる本州に比べると流通コストがかかる上に、流通が滞ると生活に支障が出るというリスクを抱えています。移り変わる時代の中で持続可能な未来社会につなげていくには、限られた資源の活用や循環、つくる責任つかう責任を意識することがますます重要になります。

プログラムで使用する廃材はスーパーのレシートや大型ロール紙などの芯棒、卵や果物の

保護材、各種梱包材、靴、お菓子、お米などの箱類、布切れ、壁紙やシール紙の端材など、その時その時で商品の品ぞろえが変わります。これらは近隣のスーパーや商店、内装屋さんや布屋さん、時には廃業するお店から頂くこともあります。廃材はすぐに捨ててしまった方が保管場所も取らず管理する負担もない、という考えを持つ方々がいる一方で、プログラムの趣旨に賛同し協力してくれる組織や人と巡り合い、パートナーシップを築けたことがこのプログラムにつながっています。

ワンダーミュージアムでは日ごろの活動がSDGsの目標達成に貢献にもつながるよう、今後もこのプログラムを継続して実施していく予定です。



材料（廃材）コーナーと工作スペース



廃材から生まれた恐竜



お買い物気分材料（廃材）を選ぶ